5月 皐月・早苗月 May

金	1	赤口 定休日
土	2	先勝
日	3	友引・憲法記念日
月	4	先負・みどりの日
火	5	仏滅・立夏・こどもの日
水	6	大安・振替休日 定休日
木	7	赤口
金	8	先勝
土	9	友引
日	10	先負 定休日
月	11	仏滅
火	12	大安
水	13	赤口
木	14	先負
金	15	友引
土	16	先負
日	17	仏滅 定休日
月	18	大安
火	19	赤口
水	20	先勝・小満
木	21	友引
金	22	先負
土	23	仏滅
日	24	大安 定休日
月	25	赤口
火	26	先勝
水	27	友引
木	28	先負
金	29	仏滅
土	30	大安
日	31	赤口 定休日

五月花　ネジバナ

五月から六月、陽当りのいい草地や畦道に気をつけていないと　雑草のように見落としてしまう変わった花を見かける。
螺旋階段のように捩じれ上がって咲くことからこの名がある
別名捩摺(もじずり)江戸時代まではこの名前で呼ばれていたらしい。

みちのくの　しのぶもじずり　誰ゆえに
乱れむと思ふ　我ならなくに
古今集　河原左大臣

ギャラリーさん

☎ テレフォンショッピング♬♪

5月は **通販カタログ** でお楽しみください

期間限定お買得品通販カタログを
5月中頃にお届けいたします

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため
当分の間　2階茶席に於ける大寄せの茶会を
控えさせていただきます

商品展示期間　**5月30日**まで

月刊
いつもの

（題字・三輪休和）
125号
2020年5月発行

何れ菖蒲（あやめ）か杜若（かきつばた）　どちらもすぐれていて優劣のきめがたい意　−広辞苑−

何れ菖蒲～のことわざは「五月雨に沢辺の真薦（まこも）水越えていづれ菖蒲と引きぞわづらふ」『太平記』に基づく。五月雨が降り続いて沢辺の水かさが増したため、真薦も水中に隠れてどれが菖蒲かわからず、引き抜くのをためらっているの意味。源頼政が怪しい鳥を退治した褒美として、菖蒲前という美女を賜るときに十二人の美女の中から選び出すように言われて詠んだ歌。いずれが優れているか選択に迷うことをいう。

今月号は「花菖蒲」・「あやめ（菖蒲）」・「杜若」・「葉菖蒲」について

それぞれよく似ているが花弁の基部が、花菖蒲は黄色の目型模様、あやめが網目模様、杜若が白の目型模様で見分ける。

「花菖蒲」開花が６月。葉が葉菖蒲に似ていて花を咲かせることから由来する。乾いた土地、水中や湿った土地にも生育。花菖蒲は、人の手によってさまざまに改良が重ねられてきた。特に江戸後期に改良が進められ、江戸で生まれた江戸系、熊本で改良された肥後系　、伊勢で生まれた伊勢系などがある。花菖蒲は三重県の県花。

「あやめ（菖蒲）　」

剣状の細い葉が縦に並んでいる様子が文目（あやめ）模様に由来する。乾いた土地で生育。古今和歌集　よみ人しらず「ほととぎす　鳴くや五月の　あやめぐさ　あやめもしらぬ　恋もするかな」とある「文目もしらぬ恋」は、道理もわからない恋のことか？あやめの花模様に例えて詠まれたのか？

「杜若」開花時期は５月　昔、花の汁で布を染めたところから「書き付け花」と呼ばれ　かきつばたに変化したと言われている「燕子花」とも書く。水中や湿った所に生育。愛知県の県花、無量壽寺がある愛知県知立市の八橋は、伊勢物語の昔から杜若の名勝地で庭園内にも在原業平によって詠まれた歌（句頭に「かきつばた」の5文字をいれて詠んだ）歌碑と業平像が建てられている。

から衣　着つつなれにし　つましあれば　はるばる来ぬる　旅をしぞ思ふ　　伊勢物語　在原業平

他に正岡子規の俳句に「三河路や名もなき橋のかきつばた」ある。

また「葉菖蒲」は、古くから薬草、漢方薬としても用いられる「菖蒲（しょうぶ）」のことで、アヤメ科の花菖蒲と混同されるが全く別の植物である。中国では白菖と書く。『万葉集』では12首に詠まれている。

ほととぎす　今来（いまき）鳴きそむ　あやめぐさ　かづらくまでに　離（か）るる日あらめや　　大伴家持

長次郎黒茶碗「あやめ」

MOA美術館蔵

「何れ菖蒲か杜若」の諺にいわれがある兄弟碗 長次郎黒茶碗「あやめ」と「まこも」のご紹介です

利休の高弟南坊宗啓が著した『南方録』に、天正15年（1587）5月に利休は「茶碗　黒　渓(あやめ)」を3回用いたとある。※渓蓀 あやめ。伝来は宗旦→一翁宗守→官休庵代々→永楽善五郎→草間伊平衛→MOA美術館。外箱蓋表及び内箱蓋表に宗旦箱書あり。「あやめ」は「大黒」や「俊寛」の形式とも違った独特の作行きの茶碗であるが、現存する長次郎黒茶碗の中では侘びの趣きの深い名碗である。口造りがわずかに内側へ包えこみ、両手のひらにすっぽりおさまるよう形づくられている。肌の起伏に微妙な趣があり全体にかけられた黒楽の釉薬が鈍い光沢の黒褐色にかせて、詫びた風情をいっそう感じさせる。袋　利休間道　　－　原色陶器大辞典より　－

長次郎黒茶碗「まこも」

藤田美術館蔵

同じく長次郎作の茶碗「まこも」の久須美疎安箱書付に「あやめまこも二つの茶碗、まこもは千宗旦所持あやめは千宗守に有之」とあり。源頼政の歌に因みて、二つの茶碗に命名せしものと見えたり。　大正名器鑑實見記には「菖蒲に對して之れに眞菰の銘を附したる古人の物數寄、眞に敬服に堪へざるなり」と記されている。伝来は宗旦→中村宗哲→久須美疎安→江原忠七→矢倉興一（矢倉家）→藤田美術館

この二碗とも宗旦所持から次男の一翁へ、宗旦四天王の久須美疎安へとそれぞれ伝来した。これは宗旦が一族に利休ゆかりの道具を伝えることで千家再興を願ったと思われる。共に長次郎外七種の一つ。

お家の中でほっと一服　華乃会　お買い得価格　ほんのりするお茶碗

各￥7,500→￥5,200

￥5,200→￥3,600

特価￥3,000

￥9,200→￥6,400

・・編集の窓・・

箱根湿性花園にて　photo by S,A

・・お知らせ・・

新型コロナウイルス感染予防のため例年十二月に催行しておりました「華乃会」バス旅行を今年は中止とさせていただきます。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます

名物写茶入展
一階店頭開催中

「つくも」の名の由来は村田珠光が九十九貫んで入手し、伊勢物語所収の和歌「百とせに一とせ足らぬ九十九髪我を恋ふらし面影に見ゆ」から命銘されたという。

足利義満所持
大名物　付藻茄子
笹田有祥作

ギャラリー森田ホームページ
左記のQRコードを読み込み
アクセスしてください！
スマホでご覧いただけます

ご案内

Instagram

茶道具商 ギャラリー 森田

月刊「ぎゃらりいさん」編集プロジェクト